

報 告

平成17年度 近畿地区医学図書館協議会／日本薬学図書館協議会・
中国・四国地区協議会／近畿病院図書室協議会
共催シンポジウム 参加記

高柳 有理子

日時：2005年11月17日（木）14：00～17：00

場所：大阪大学附属図書館生命科学分館

AVホール

テーマ：利用者教育におけるプレゼンテーションの実際

－教材の作り方と指導の技術－

講師：早稲田大学図書館 仁上幸治氏

当日の配付資料の冒頭に「情報検索指導における例題の作り方、現場の準備、必要な情報を利用者に伝えるための講師のパフォーマンスのあり方等、利用者教育に必要なプレゼンテーションの技術についてお話いたします」とあるように、この研修そのものがまさに仁上先生のプレゼンテーションでした。実際に先生が使われたプレゼンテーション（劇場映画を使用した例や、失敗例を基にして成功に導かれた例もありました）も交えた講演で、とても興味深く聞け、わかりやすい研修でした。情報検索のための文献やサイトの紹介もたくさんありました。会場は、静かではありますが熱い熱意に包まれていました。

質疑応答のコーナーでは、ただ聞いているだけでもためになる質問も飛び出しておりました。パワーポイントの効果的な使い方について、という実務的な質問も参考になりました。その中でも、とても印象に残っている質疑応答があ

ります。それは、「医学図書館に勤めていても自分には医学知識がない。どうすれば専門性は身に付くのでしょうか？」という内容のものでした。先生のお答えは「主題分野の知識を持つとしたら、自分が医師になってしまう（でも私たちは図書館員です）。そうではなく、医学では医師が専門家だけれど、この分野の資料なら私に任せて！というように、図書館員としての専門性を持っていければいいのではないか」というものでした。おそらくご参加の皆さまも、この言葉に、それぞれの胸の内に思うことがあったのではないのでしょうか。私もこのことについて悩んでおりましたので、この回答をこの先の私の業務指針にしていきたいと思えます。

研修会は、いただいたレジュメからだけでは見えてきません。やはり実際に参加してこそ何かが見えてくるものだと思います。

研修終了後、大阪大学附属図書館生命科学分館の図書館見学ツアーもありました。雑誌の配架方法やレファレンス・カウンターなどが興味深く、つい熱心に見学させていただきました。丁寧に対応してくださいました大阪大学附属図書館生命科学分館の皆さま、ありがとうございました。またこのような研修を受ける機会がありましたら、ぜひ参加させていただいて、色々な刺激を受け、日々の業務に役立てたいと思います。仁上先生、シンポジウム開催ご関係者の皆さま、ありがとうございました。

たかやなぎ ゆりこ：医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院
図書室

tosho@kariya-gh.or.jp